


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 講師</p> <p>川上 英明 (かわかみ ひであき)</p> <p>KAWAKAMI Hideaki</p>
所属	保 育 科
学位	博士 (教育学) (東京大学)
資格・免許	小学校教諭一種免許状 (平二七小一第一八〇号)
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>2016年3月 宮城教育大学教育学部初等教育教員養成課程言語・社会系 社会コース 卒業 (学士 (教育学))</p> <p>2018年3月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース修士課程 修了 (修士 (教育学))</p> <p>2022年1月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース博士課程 修了 (博士 (教育学))</p> <p><職歴></p> <p>2018年4月 国際ティビシィ小山看護専門学校 兼任講師 (～2019年3月)</p> <p>2020年4月 横浜保育福祉専門学校 兼任講師 (～2021年3月)</p> <p>2021年4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (現在に至る)</p> <p>2021年4月 山梨学院大学健康栄養学部 兼任講師 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>教育原理 道德教育の理論と方法 教育職論 現代文化論 地域学校経営論 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ (以上、保育科)</p> <p>教育哲学 教育学特論 道德教育特論 (以上、専攻科保育専攻)</p> <p>幼稚園教育実習指導 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ (保育所) 小学校教育実習指導 道德教育指導論 (山梨学院大学健康栄養学部)</p>
専門分野	教育哲学 教育思想史
現在の研究テーマ	京都学派の哲学と教育学に関する思想史研究
競争的資金等の 研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「種の論理」から「市民主義」の教育思想へ―田邊元と久野収の教育論に着目して (日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2021年8月～2023年3月 課題番号 21K20279) ・森昭の道德教育論と「特設道德」論争―道德の教科化の是非をめぐって (公益財団法人上廣倫理財団 令和元年度・令和2年度研究助成)
所属学会	<p>日本教育学会 教育哲学会 教育思想史学会 実存思想協会</p> <p>ハイデガー・フォーラム</p>
メッセージ	<p>保育の実践知と原理的な知とをつなげる、生きた知識の獲得を応援します。また、保育者・教育者である以前に一人の市民として、教養を身につけ、問題を解決する姿勢を持つことを期待します。</p>

教育	
2021年4月～2022年3月	
教育方針	専門性を有する市民としての保育者・教育者の養成
授業	<p>授業の工夫</p> <p><教育原理> 保育科1年生前期の卒業必修の科目である。「教育とは何か」「教育はいかなる営みなのか」という原理的な問いから、教育格差、子どもの貧困、教員の働き方などの現実的な問題までを扱い、学生が教育学の原理的な考え方に入門できるように心がけた。授業終了後に毎時間、小レポートを課し、それに対する回答を次回授業の冒頭で行うことで、卒業必修で受講生が多い講義であるにもかかわらず、双方向的なやり取りができるように工夫した。</p> <p><教育職論> 小学校教諭二種免許状の取得を目指す学生の科目である。小学校教諭という職業に関する基本的な知識から、教師に関する哲学的な議論まで、幅広く紹介するように心がけた。なお、哲学的な議論については、補助教材として映像資料を活用し、理解を深めさせるように工夫した。</p> <p><現代文化論> 短期大学1年生を対象とした教養科目である。現代文化を対象とした哲学的・社会史的な考察あるいは批評を行う講義形式の授業の他に、受講生が自らプレゼンテーションをする機会を設けた。そうすることで、自身が関心を持つ事柄について、いかに効率よく他者に情報を伝えるかということを考えさせるように心がけた。</p> <p><教育哲学> 専攻科保育専攻2年生の科目である。短大での学びにおいて、哲学に触れる機会が多くない学生も取り組みやすいように、授業では哲学対話(子どもの哲学: philosophy for children, p4c)の手法を取り入れた。コミューティボールを用いて学生が相互に意見を出し合うことで、教員によるレクチャーを、学生主体で深めさせるように工夫した。</p>
	<p>授業改善のための取組</p> <p>講義内で最新の情報を紹介できるように、書籍やソーシャルメディアを通じた情報収集に努めている。また、学会や講演会に参加することで、最新の学術的な動向も押さえるようにしている。(2021年度に参加したもの: 日本教育学会第80回大会、教育哲学会第64回大会、教育思想史学会第31回大会、東京大学 CASEER 主催「驚きと創造性に耳を傾ける: スウェーデンのレッジョ・インスピレーションとの対話」)</p>

教育（つづき）		
2021年4月～2022年3月（つづき）		
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	<卒業演習 I > ゼミ生の関心に基づいて、近藤幹生『保育とは何か』（岩波書店、2014年）および西澤哲『子ども虐待』（講談社、2010年）を輪読した。輪読に際しては、担当箇所の要約とコメントを付したレジюмеを作成・配布させることで、文献購読の基礎を経験させた。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	2021年度は該当なし
課外活動	特になし	
2021年3月以前		
主な教育業績	該当なし	

研究		
2021年4月～2022年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） <u>査読付き</u> 大正生命主義の思想圏における木下竹次の 合科学習—「総合的な学習／探究の時間」 の思想史のために— （単著）	2022年3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第42巻（31-42頁）
（学術論文） 京都学派の緊張と教育学への越境 —田邊元の哲学と森昭の教育思想— （単著）	2022年1月	東京大学 博士論文
（学術論文） <u>査読付き</u> 田邊元と森昭における偶然性の問題—戦後 教育学の発達論に伴う必然性を相対化する ために— （単著）	2021年12月	日本教育学会『教育学研究』 第88巻第4号（610-621頁）
（学術論文） <u>査読付き</u> 田邊元と森昭の経験主義批判における認識 論の問題—京都学派教育学における「行為 的自覚」の系譜— （単著）	2021年9月	教育思想史学会『近代教育フォーラ ム』第30号（147-157頁）
（学術論文） <u>査読付き</u> 他者の人格の手段化に抗する道德教育—森 昭によるカント解釈の特質と「種の論理」受 容の問題— （単著）	2021年7月	東京大学大学院教育学研究科 基礎 教育学研究室『研究室紀要』 第47号（53-63頁）
（学術論文） 道德教育における評価の問題と他者の位置 付けを考える—ジュディス・バトラーの「説 明」概念に着目して— （共著）	2021年5月	『東京大学大学院教育学研究科附属 学校教育高度化・効果検証センター研 究紀要』第6号（36-51頁） （西村文吾・樋口大夢・川上英明・中 森千裕・田邊尚樹）
（学会発表） 成りつつある教師—戦後初期における森昭 の教師論と田邊元の懺悔道— （単著）	2021年8月	日本教育学会第80回大会 （オンライン開催、会場校：筑波大学）

研究 (つづき)		
2021年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) <u>査読付き</u> 森昭における社会性と個性をめぐる問題 構制—田邊元のハイデガー批判との関連性— (単著)	2020年11月	教育哲学会『教育哲学研究』 第122号(1-19頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 人間生成の歴史性と自然性—京都学派の思想 圏における森昭のハイデガー解釈— (単著)	2020年9月	日本教育学会『教育学研究』 第87巻第3号(367-378頁)
(学術論文) A Philosophical Study on Evidence- based Education and "Subjectification": Exploring a New Conception of Citizenship Education in an Age of Measurement (共著)	2020年3月	『東京大学大学院教育学研究科附属 学校教育高度化・効果検証センター研 究紀要』第5号(34-42頁) (Hideaki Kawakami, So Fujieda, Naoki Tanabe, Hiromu Higuchi, and Yu Iwase)
(学術論文) <u>査読付き</u> 現代教育学における実証主義の問題—マル ティン・ハイデガーの实在論批判を手がかりに— (単著)	2019年7月	東京大学大学院教育学研究科基礎教 育学研究室『研究室紀要』第45号(117 -124頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> コンセンサスと沈黙の間における言語活動 —ジャック・ランシエールの教育論におけ る二つの愚鈍化からの解放の論理— (単著)	2018年7月	東京大学大学院教育学研究科基礎教 育学研究室『研究室紀要』第44号(49 -58頁)
(学術論文) 教育実践における真理の意味—アーレント によるハイデガー真理論の受容と批判を手 がかりに— (単著)	2018年3月	東京大学大学院教育学研究科『東京大 学大学院教育学研究科紀要』第57号 (327-335頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 子どもの哲学(p4c)における活動的あるい は事理的生—初期ハイデガーとアーレント におけるロゴスに着目して— (単著)	2017年7月	東京大学大学院教育学研究科基礎教 育学研究室『研究室紀要』第43号(131 -140頁)

研究 (つづき)		
2021年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学会発表) 晩年の森昭における教育目的への問い (口頭、単著)	2020年10月	教育哲学会第63回大会 (オンライン開催、会場校：日本大学)
(学会発表) 森昭と「特設道徳」論争—カント解釈に着目して— (口頭、単著)	2020年8月	日本教育学会第79回大会 (オンライン開催、会場校：神戸大学)
(学会発表) 森昭における「世界内存在」について—田邊元のハイデガー解釈との関連性— (口頭、単著)	2019年10月	教育哲学会第62回大会 (於：広島大学)
(学会発表) <u>ピア・レビュー付き</u> The Tension Between Individuality and Sociality in the Philosophy of Education: Focusing on the Concept of Being-in-the-World in Martin Heidegger and Akira Mori (ポスター、単著)	2019年8月	World Education Research Association (WERA) 10th Focal Meeting (at Gakushuin University)
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2021年4月～2022年3月		
該当なし		
2020年3月以前 (主なもの)		
・教育思想史学会 第10期事務局幹事 (2018年11月～2021年3月)		
受賞 ※個人、所属団体		
該当なし		